



森のなごま

2011年 8月号

NO.40 (継続185)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

パートナー企業様をご紹介します。 ④



日揮株式会社 様

日揮株式会社は、1928年の創業以来世界約70ヶ国において資源開発、石油、ガス、石油化学、発電、非鉄金属、医薬、環境などの幅広い分野で大小2万件以上の生産設備の建設プロジェクトを手掛けてきた日本におけるエンジニアリング会社の先駆者です。今までに培った知見を活かし、低炭素社会の実現、環境負荷の低い新たなエネルギーの開発、環境浄化事業の推進など、環境保全事業にも積極的に取り組んでいます。

日揮は創立80周年を記念し2008年8月1日に水源林パートナーに参加し、やどりきにおける森林活動をあらたに環境保全活動の一つとして加えました。

毎月1回最終土曜日に行われる活動は、やどりき水源林を中心とした季節感あふれるプログラムになっています。

春：お花見ハイキング、滝巡りとお点前、新入社員間伐研修
夏：子供達の夏休み、水棲生物観察、クラフトワーク、
秋：紅葉観賞ハイキング、森林セラピー、間伐、枝打ち、
冬：間伐、クリスマスリース作り、



日揮の森林活動には海外子会社を含めた日揮グループの従業員、家族、友人が参加しています。

フィリピンから来日している海外子会社社員にとって、やどりきの四季の変化や絶えることのない清流がとても新鮮な驚きようです。

社員やその家族には、かながわの水道水の源を知り、水源の森林の大切さを認識するきっかけとなっています。

新入社員の間伐研修は、新社会人たちにチームワークの大切さを教える良い機会となっています。



笑顔がステキなフィリピン社員の皆様



間伐はチームワークで！！

なによりも、新鮮な空気とやさしい緑の中での静かな一日は、参加者全員に安らぎを与え、心身をリフレッシュさせています。



ウオー！熊出没！



子供たちに人気の水棲生物観察



クリスマス・リース作り



真冬の間伐大会に参加しました。

日揮の活動を指導し、応援していただいている、かながわトラストみどり財団、かながわ森林インストラクターの会の皆様、どうもありがとうございます。
日揮株式会社 佐藤 恭平
＜かながわ森林インストラクターの会1期＞

東日本大震災・エコー神奈川考

神奈川県森林チーフインストラクター 飯村 武

東日本大震災は、ことに津波が三陸沿岸（宮城県、岩手県）に住む人々に打撃を与え、また人知苦心・安全の筈だった原子力発電所（福島県）をも毀し、今もなお放射能が人々を脅かし続けている。

小生はかつて、三陸沿岸地域に足跡を刻んだ経緯がある。岩手県などの要請で、シカ個体群による農林被害の防除対策とその管理計画を策定するためであった。「北から南に、宮古、大槌、釜石、唐丹、吉浜、越喜耒、綾里、大船渡、広田、そして気仙沼、女川、石巻の各湾がリアス式の海岸を成している。100年に一度、そして1000年に？の津波のことは、行く先々繰り返し聴かされた。

津波対策。それは住居等を高台に移すことにつきる。引越しの跡地は植林、漁港、耕作のみの利用とし、道路は農林漁、そして一大事の際の避難路兼用で整備することだ。

高台での森林喪失の代償として、跡地では植林を第一に進める。立地に応じて樹種を選択する。用材生産目的なら経済性と魚つき保安林（後述）の機能を併せ持つ長伐期・択伐施業・いわゆる大径木生産の林業経営を目指す。これらの林は震災のメモリアルともなろう。防潮・防風林の配置など、森林技術の発揮の為所だ。

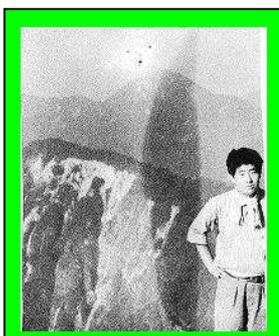
高台を中心とした街づくりの基礎は、何をおいても電気・エネルギー源の確保だ。原発にかわって当然、自然エネが模索される。太陽光、風力、地熱、海洋と並ぶが、土地柄整備の中心にバイオマスを据えて見てはどうか。

バイオの本命は木質である。我国には森林として蓄積されている。雑木林であれば約20年の輪伐期、萌芽更新の技術で持続的に収穫できる。スギ・ヒノキ人工林の除間伐材であれば、いま所管行政が手を拱ねている育林にも貢献でき、里地里山の活性化、生物多様性の保全・再生に連なる。雇用も創出される。待望の、“若者よ山林に来たれ！”である。

フィンランドのビクショウ市をはじめ、ヨーロッパの国々では「化石燃料ゼロ」「脱原発」を掲げて、バイオの街づくりを進める自治体が確実に増えている。これに比べ、我国のそれは今一つだが、それでも10数県のその筋が動き始めている、と全国木材協同組合連合会（2003）が伝えている。気運助長のいいチャンスであり、国産材内需拡大の展望も開けてこよう。

三陸の基幹の一つは沿岸漁業、親潮がもたらす幸だ。海は森が育てる。豊かな山が海の幸を育む。森林法には「魚つき保安林」の定めがあるし「森は海の恋人」と言われる所以だ。最近では森・川・海そして街を結ぶ環境論の立場から森と海との恋仲は深山幽谷、源流域へと分け入り、ブナ帯下限で河畔林などの再生に勤しむようになった。奥羽には青い山脈と親潮が織り成す自然があり、脈打つ鼓動がある。営々として築いてきた文化がある。＜ブナ帯文化＞という。三陸の街づくりは、この自然、鼓動、文化に即して進められることとなる。

東日本大震災、その域の最西に位置し、相模湾に臨む神奈川県。関東大震災時には津波の被害が発生し、丹沢の山肌は崩れ、今もってその修復が続いている。富士山や箱根の噴火にともなう災害は記憶に新しく、その昔にも地震・津波の記録がある。これらの現象の再来は今日の科学が予測しているところだ。目前には東海大地震、これは他人事ではない。



関東大震災で崩壊した西丹沢白ヶ岳山頂付近の登山道。
1961年・夏 蛭が岳山頂より望む。
＜写真：広報部・MURA＞

三陸のエコーが呼び起こす。このたびの震災は「山（林）と海とがぶつかり合い、そして砕けた」と。山（林）には尊厳の、海には畏敬の念が募る。原発事故のなせる業が、この念をいっそう増幅させる。

古来「政」の基本は水系を治める治水、山林を豊かにする治山といわれてきた。その基本は今もって変わっていない。三陸、東日本の海岸は日本列島全体の問題として、そう語りかけてくる。

私の認識

野鳥その90

高橋 恒通

今月から“夜の猛禽類”と言われるフクロウ目フクロウ科の野鳥を暫くご紹介致します。

一番手は留鳥のフクロウ（漢和名：梟、英和名：Ural Owl, 体長L=50 cm）です。

フクロウには亜種エゾフクロウ、亜種トウホクフクロウ、亜種モミヤマフクロウ、亜種キュウシュウフクロウの4亜種があり、寸法の大小や体色の濃淡があるそうです。私は鳥類学者ではありませんので学問性や学術性が豊かな内容の記述はできません。従って全部をひとまとめにして、“フクロウ”で以下に紹介しましょう。

フクロウの体色は♂♀同色、体上面は灰色地に黒色、褐色の斑が複雑に混じり合い、肩羽の外側に濁白色が線状に目立ちます。体下面は濁白地に黒褐色の縦斑がありますが、その斑の入り方には多少の個体差がある様に思われます。



夜の猛禽類であるフクロウ科の野鳥達には共通の特長が幾つかあります。猛禽類特有の羽音を立てない飛び、鉤状の嘴、鋭い爪に加え、両眼が人間と同じ様にほぼ同一平面上にあり、そして首は約180度回転できます。フクロウ科以外の野鳥には絶対に見ら

れない“顔盤（ガンバン）”と呼ばれる恰も林檎を軸方向から半裁にした如き平面もあります。この顔盤上に両眼と嘴が絶妙な位置関係で印象的な均衡を保って納まっていると私は認識しています。

フクロウの顔盤は灰褐色です。目は黒色で嘴は僅か乍ら濁黄の残る褐色です。

フクロウ科の野鳥の目は瞳孔を取り囲む“虹彩（コウサイ）”の部分に黄色、橙色、金色など種ごとに特長がありますが、フクロウは黒色です。従って、瞳孔と合わせて目全体が黒色ですので、正面向いてご対面した時のご面相は穏やかですが、獲物を見据える顔は迫力満点。

棲息環境は平地の林、神社や寺の大木のある森、所謂、“鎮守の森”、と言われる処、そして大木の生えている低山などです。

啼き声にも特長があり、繁殖期の夜には“ゴッホウ、グルスク、ホッホウ”と言う野太い声で間隔をあけて繰り返して発声します。♂♀共に同様の啼き声だそうですが私には判別できません。聞き做（ナ）しは”ボロ着て奉公“や”ゴロスケホー“などが良く知られております。

主食はネズミですが鳥類、両性類、爬虫類なども捕食します。活動は主に夜間です。

採食行動の有力武器は顔盤の左右縁取り羽毛の下にある耳です。この鋭敏な機能のある耳で獲物の動きを的確に捉えます。雨の日や風の強い日の夜は耳が使えず餌が獲れないので、昼間に狩をするそうです。

営巣は大木の樹洞が主で、他には屋根裏、人工の巣箱、タカノ古巣なども活用します。

私がビギナーの頃に、“高麗（コマ）山探鳥会”通称“こまたん”のリーダーから、「高麗山北面のケヤキの大木に犬小屋位の巣箱を掛けたら、営巣育雛したヨ」と言っていました。

私自身、現在の茨城県稲敷市に単身赴任していた折に、龍ヶ崎市の郊外に在る曹洞宗の金龍寺と言う古刹のタブノキの大木の枝に止まっているフクロウを何度も観ました。また2月末の早朝に“ゴロスケホー”を幾度も聴いています。金龍寺のフクロウは、私の双眼鏡の中で目を閉じたり開いたりして西欧で言われる”森の賢者“なる風格は余り感じられませんでした。愛嬌タップリでした。

<参考資料>

- ◎ 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄
山と溪谷社
- ◎ 日本の野鳥、山溪カラー名鑑、
編 高野伸二、解説 浜口哲一、森岡照明、
叶内拓哉、蒲谷鶴彦
山と溪谷社
- ◎ オールドガイド 日本の野鳥 野鳥ブックス②
高野伸二著 （財）日本野鳥の会
- ◎ 野鳥 山溪フィールドブックス④、写真/叶内拓哉、解説/浜口哲一、山と溪谷社。
- ◎ ～フクロウ～ イラスト 大塚晴子<11期>

★森林整備で元気になろう！！★

森林部会やどりき新定着 滝澤 洋子<5期>

森林部会で行っている「森林づくり定着型ボランティア活動」（やどりき新定着）のエリアは、やどりき水源林内のウシロ沢出合から沢沿いに30分登った所から、さらに30分上の稜線にかけてと、稜線を登山道沿いに栗の木洞手前までの西側。全体で10.14ha、昨年2月の間伐大会の場所もこのエリアの一部です。



ここで私達は「300年後の美しい針広混交林」を目指して、主としてヒノキの人工林で、水源涵養機能の豊

かな森林、多様な生物の棲める森林、訪れる人に親しみのある森林を念頭に、間伐・枝打ち・径路整備・密度調査などを行っています。

300年後とは私たちの残りの時間を考えるとあまりにも遠い先の事のようにですが、今私たちが出来ることを話し合い、調査し、計画を立てながらの作業は楽しいものです。

ウシロ沢の四季折々の素晴らしい景色。体を動かし力を出すことで得られる満足感。森林が綺麗になっていくのを確認して得られる達成感。

これらがあるから現場までの道のりが少々あっても、道具を持って登ることも苦にならず、また次回も参加しようと思えるのです。まさに「森林を元気にすることで、心も体も元気になれる！」です。



また、安全に作業を行うための技術も磨けます。

毎月4～5回の作業予定を立て、活動可能なメンバーがリーダー格を含め3～4名揃えば実施とし、作業計画に沿って自分に出来る作業をしています。もちろん不安のある方には技術指導もします。一緒に元気になりたい方、会員に限らずどなたでも歓迎することになっています。

お問い合わせは（森林部会）浦野 稔まで

E-mail: uranusjpn@yahoo. co. jp

Tel/Fax 046-238-3734

今年も桜美林大学生が体験研修で会活動に参加！

事務局長 竹島 明

桜美林大学の履修教科の一つ「ECO-TOPプログラム」(注)の現場研修が今年も8月からスタートします。この研修制度は昨年度から始まり今年で2年目。参加する学生も大幅に増えて6名。プログラムは下記一覧のとおりです。活動で顔を合わせることがありましたら、将来を担う若人に励ましのお声をおかけください。

(注) ECO-TOPプログラム・・・自然環境分野で幅広い知識を備え、行動力ある人材を育成する制度で、行政、民間、NPO 団体で20日間のインターンシップを行う。受け入れ団体は無償協力。

今回の受講生は桜美林大学リベラル学郡環境学専攻学生6名

<平成23年度研修プログラム(予定)>

NO	日時、内容、場所	NO	日時、内容、場所
1	8月5日(金) AM10:00 オリエンテーション (会活動概要) *厚木事務所	8	9月3日(土) AM10:00 オリエンテーション (会活動概要) *厚木事務所
2	8月6日(土) AM9:00 癒しのフィールドづくり *やどりき水源林	9	9月17日(土) AM8:30 森の案内人(やどりき) *やどりき水源林
3	8月13日(土) AM8:30 県民参加の森づくり (川崎) *川崎市麻生区	10	9月24日(土) AM8:30 秦野街頭キャンペーン *秦野市
4	8月21日(日) AM8:30 森の案内人(やどりき) *やどりき水源林	11	9月25日(日) AM8:30 秦野街頭キャンペーン *秦野市
5	8月27日(土) 紙すき研修 *山北町水源交流の里	12	9月29日(木) PM4:00 会報印刷・発送 *県民サポートセンター9F
6	8月30日(火) PM4:00 会報印刷・発送 *県民サポートセンター9F	13	10月15日(土) AM8:00 やどりき水源林の集い *やどりき水源林
7	雨天等による予備プログラム	14	雨天等による予備プログラム

活動短信

5/29～6/25

平成23年度「川崎市さとやま研修会」

第1回「低木(つつじ等)の枝抜き剪定、刈り込み」

日 5月29日(日) 10時～12時 雨

場 川崎市等々力緑地

参 一般市民による研修会メンバー17名

スタッフ 川崎市公園緑地協会他2名

イ L渡部⑦、相馬⑤、松本⑧、一重⑩、大橋⑩、福島⑩、

計6回の研修会、第1回目。参加申し込みは25名だったが雨天のためか、参加者は小学生2名を含めて17名だった。公園緑地協会会議室で開講式が行われ、続いて「アイスブレキングのビンゴ(低木名)」で参加者が一体になった。その後専門講師(造園家)により・なぜ剪定するのか・剪定期時は・剪定方法の講義が行われた。続いて森林インストラクターにより、道具の説明、服装、安全管理・道具の手入れ方法の説明が行われた。今回の参加者は市内の公園や緑地を管理している方が多く、質問も経験による内容が数多く出された。雨が強くなり実習は中止となったが、専門講師、森林インストラクターが雨の中、作業を実演しながら現地で解説・質疑があり、参加者は午前中で解散になった。予備作業日は、5月31日(火)10時～12時で参加者10名、森林インストラクター2名で実施された。

(記 7期 渡部)

パートナー林の保全活動(間伐・自然観察・木工)

日 6月4日(土) 10時～12時 晴れ

場 やどりき水源林

参 JX日鉱日石エネルギー(株)関係者130名
(内 子供30名)

県 自環保・森林再生部水源の森林推進部2名

イ L斉藤⑥、落合③、渡辺③、小野⑦、白畑⑦、渡部⑦、中島⑨、金森⑩、酒井⑩、松山⑩、

梅雨入りしたにもかかわらず湿度が低く爽やかな風が吹く天候となった。開会式の後、間伐、自然観察、木工細工に分かれて12時まで自然を満喫した。間伐は、急な山道で汗が引く間もなく作業に取り掛かる。4班(各約10名)に分かれて落石に注意しながら1～2本を間伐し達成感を得た。

自然観察は、Bコースにて主要な植物やグリーンタフなどを中心に説明、ヤマビルも出没し観察の題材となった。

木工細工は、どんぐりトトロを作成。端材を持ち帰る方もいて盛況であった。落合インストラクターによるトトロの顔サンプルが参考になり喜んでもらった。

(記 10期 金森)

小学生・林業体験

日 6月8日(水) 11時15分～15時・小雨のち晴

場 愛川ふれあいの村

参 横浜市立中山小学校 5年生 73名

教師他 6名(申し込み者 79名)

財 古舘

イ L小野⑦、渡辺③、出口④、伊藤⑦、斉藤⑧、飯澤⑨、小沢⑨、松山⑩、

★林業に携わっている方の仕事・苦勞・やりがいと私達の生活との関わりについて

当初の計画では長竹での間伐・コースター作り・森林談話を、雨天時には愛川ふれあいの村にて午前は森林談話・午後は箸作りのお手伝いを7班に分かれて実施の予定であったが、前日の予報で長竹の開催を決め、当日朝の雨模様も開始時には止むとの予報を信じ、各自長竹に向かうが途中、連絡を受け急遽ふれあいの村へ変更して10時過ぎには全員到着して学校側を待つ。バスが渋滞で遅れ11時15分より開会式、続いて班別にテーマに沿っての講座を開始した。急な予定変更にも関わらず講師の皆さん夫々の持ち味を発揮、生徒も真剣で質問も多く予定の1時間が短く感じられた。午後は当所職員の指導で杉材による箸作りをお手伝いしたが、切り出しナイフの使い方には少々苦勞したようだ。私は終始各班を巡回してのお手伝いでしたが、このような活動形態も今後採用を検討すべきと実感した。

(記 7期 小野)

自然観察部会・インストラクター研修会

日 6月11日(土) 9時半～15時 雨

場 鎌倉市散在が池

講師 友谷①、久保⑧、黒澤⑧、野田⑧、女川⑨、

参 内野⑨、小林⑨、上田⑩、海野⑩、小林⑩、上宮田⑩、尾崎(一)⑩、鳥飼⑩、松浦⑩、松永⑩、

雨の中の研修会となった。ベテランの講師の方々も雨をもいわず駆けつけてくださった。これ以上、ありがたい話はあるかと、心の底から感謝の意を表したい。参加した研修生も、劣らず向上心に燃える人たちである。講師1名と研修生2名の班編成で、密度の濃い研修となった。

散在が池は1周約1.5キロ。それを3周した。1周目は下見として情報収集。2周目は本番さながらの研修生による模擬観察会。3周目に講師からの指摘や助言。雨の中では、観察もままならず、雨音で話も聞き取りづら。視界もきかないし、メモ帳も濡れるなど、やりづらかったが、それぞれのレベルに応じて収穫があった。雨が樹幹を伝い、地中に吸い込まれる。落ち葉の表面を叩く降雨とむき出し土の斜面を削るように流れる雨水は森林の効用を説く絶好の材料であるが、降り続く雨では、気もそぞろだ。やはり観察会は、せめて雨のない日にしたいものだが、マント群落を形成するテイカカズラが滝のように満開に咲き誇る様は、雨中研修会での別格の贈り物であった。(記 11期 鳥飼)

県民参加の森林づくり(下草刈り)

日 6月12日(日) 曇り

場 小田原市久野

参 一般県民 45名(女性11名)

財 内海課長、永島。 看 青木

用具準備 小田原市森林組合

イ L松村(俊)⑧、木元④、相馬⑤、森本⑤、滝澤⑤、鈴木(碩)⑥、大道⑥、篠原⑨、真貝⑩、中村⑩、小笠原⑩ 研 柴⑩

当初の予定は11日(土)であったが、雨天のため予備日の12日に実施された。そのため参加者は申し込み者の半分以下の45名になってしまい、予定されていた範囲を縮小して行われた。

年度初と言う事ではじめに財団の内海課長からご挨拶がありました。前日の雨で足場も悪い上に急斜面での作業となったが、我々の心配は無用になり全員無事に終了できた。リピーターのお顔も多数見受けられたが、今回初めてと言う方が多いのには驚いた。長年、船に乗っておられた方が「海を汚してる犯人は船であったので、これからは山林の整備をして海を綺麗にしたい。」とおっしゃっていたのが印象に残った。

ミニ講話は「東北地方の山林整備と今回の震災について」であった。震災時に山林がどのように役立ったか、災害ボランティアとして活躍されたリーダーからの話に参加者一同耳をすませて聞いていた。曇天ではあったが活動中に熱中症になる人もおらず帰路についた。(記 10期 小笠原)

森林散策とピザ作り

日 6月12日(日) 9時~15時 晴れ
場 小田原市いこいの森
参 一般参加者 35名(大人15名・子供20名)
スタッフ 小田原市森林組合 佐藤 他
イ L村井⑨、出口④、小沢⑨、松山⑩、

いこいの森エリア内を散策して、昆虫や植物の観察、森林の種類や働きなどを説明。自然の中で子供たちがのびのびと過ごしてもらいたいと言うのが依頼元の希望でした。

お楽しみのピザが発酵している時間を利用して森林散策へ出発。前日の雨で沢の水量が増え危険と言う事で飛び石コースや笹舟は取りやめましたが、たくさんの沢ガニに遭遇して参加者は大満足。

“五感を使って森を楽しみましょう”そんなパンフを作ってみました。各インストラクターは持ち前の楽しい知識を披露された様子。ヤマグワやモミジイチゴを頬張る子供。クロモジ、サンショウの香りにウツトリ。お昼は自宅より持ち寄った具材をトッピングして多彩なピザが焼き上がり、参加者大満足の出来栄でした。私達も各グループに混じってお手伝い。美味しいピザを頂きました。昼食後、いこいの森よりニジマスのつかみ取りの提供を頂き、子供達の元気な声がいこいの森にこだましました。管理人がニジマスの下ごしらえをしている間、針葉樹林の森林散策へ・・・最後にニジマスの塩焼きに舌鼓し解散となりました。

(記 9期 村井)

JAM 神奈川10周年記念ボランティア

日 6月18日(土) 10時~13時 小雨
場 南足柄市塚原(南足柄市県行造林60区域)
参 22名
イ L山崎⑦、渡辺③、浦野⑧、金森⑩、

梅雨期の小雨模様には霧が立ち込め、周囲の視界が非常に悪い。平成21年5月24日の植樹祭、

プレ会場でヒノキの下草刈りを行いました。参加者22名は若い青年男女で、下草刈り作業は初めてと言う。事故防止の観点から鎌の取り扱いについて十分な注意が必要であり、各インストラクターから作業現場での指導をお願いしました。

南足柄市周辺の箱根外輪山から丹沢湖を中心として酒匂川を流れる水源域を説明し、水資源の安定した供給が未来に引き継がれて行くように、荒廃しつつある水源の森林づくり活動に継続的な参加を呼びかけて終了しました。(記 7期 山崎)

県民参加の森林づくり活動(下刈)

日 6月25日(土) 9時半~13時 晴れ時々曇り
場 南足柄市塚原
参 一般応募者 60名
財 古舘、永島 **看** 青木
イ L水口⑨、友谷①、石原③、齋藤⑥、宮本⑥、鈴木(碩)⑥、白畑⑦、坂齋⑦、山崎⑦、有坂⑧、柴⑩、**研** 大橋⑩

天気は数日前の予報の雨とはうって変わって、晴れ時々曇り。涼しい風に若干救われたものの、日陰のない作業での暑さは厳しいものであった。心配された熱中症、また、蜂にも出くわすことも無く、無事作業を終了することができた。下刈り作業の場所は植栽4年目のヒノキで、背丈は1~1.7m程まで順調に成長していた。これだけの高さだと、誤って刈る心配もなかった。15名/班で5班に分かれての作業。斜面下側担当の班はエリアが若干広めだった様で、作業が遅れ気味であったが、他の班に応援に入ってもらい、時間通りに作業終了することができた。作業後のきれいに刈られた眺めは、疲れを忘れて、爽快な気分させてくれた。作業後のミニ講話は「水資源と森の役割」をテーマにした話で、森林づくり活動のさらなる参加を願って締めくくられた。(記 9期 水口)

「学校林自然観察会」

日 6月25日(土) 13時~16時
場 横浜市立芹が谷中学校 学校林
参 環境活動クラブの生徒6名 校長・教師3名
イ L森本⑤、野田⑧、

環境活動クラブの初夏の自然観察会で、インストラクターの派遣としては3回目。今年は、オーダーのあった「押し葉」の作成のほか、常緑樹・落葉樹の区別、ツタの生態観察をした。

「押し葉」は、部員の調査コメント付きで、秋の文化祭に展示の予定。お楽しみで採りあげたシュロバッタは、新鮮で好評だった。(記 5期 森本)

お詫びと訂正：7月号『森のなかま』本誌「やどりき水源林ミニガイド」6月のトピックの写真はミツバアケビでなく、ミツバウツギです。お詫びして訂正いたします。

やどりき水源林 ミニガイド

7月のトピックス



オオリリが水源林にやってきた。スズメより大きく、オスは背面のブルーが目立ちます。

ピーリーリーポイヒーピピ、ピールリ

8月の水源林



夏休みだぞー！

水の中の生き物探しに森の案内人がお手伝いします。7日、13日、14日、21日にぜひお子様連れでおいでください。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度（12月1月2月休止）

●集合：水源林入口ゲート前

●内容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300

●ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

かながわ県産材まつり 県立21世紀の森

日程：8月6日～7日

時間：9時～15時

内容

椅子、マイ箸作りなどの木工体験など

—申し込み不要—

問い合わせ；0465-72-0404まで

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。＜広報全般についてのお問い合わせ＞

小沢章男まで

Mail;a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp
Tel;0467-52-2191

送り先

＜①電子配信担当＞ 森 義徳

〒232-0053
横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202
Tel/090-5433-7784
Mail:shinrin_inst.denshihaishin@gmail.com

＜②メール・手書き原稿送り先＞

【本誌】村井正孝
〒226-0002
横浜市緑区東本郷6-22-1-420
Tel/Fax：045-476-4112
Mail：murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871
小田原市下堀123
Tel/Fax：0465-42-7240
Mail：minagold109@yahoo.co.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045
横須賀市東逸見町3-7
Tel/Fax：046-825-9281
Mail：2nahemi0818@jcom.home.ne.jp
原稿は随時受け付けてます。

編集後記

★人間が造った工物が、作った人間が管理出来ない。高度に発達した社会は、自然と共に生きる生活にも戻れない。連日の猛暑如何に過ごすや。せめて、暑気払いに好きな山の頂に、豊かな自然に身を委ねたい。そして、里の蛍の光に爽やかに、心の憧園を彷徨いたい。(鈴木松)

★7/9に梅雨が明け夏本番と成り猛暑の始まり、台風6号の豪雨自然に逆らっては生きていけない受け入れる気持ちを持って前向きに！

吉報も有り (小沢)

★我が家のゴーヤのグリーンカーテンが日に日に大きくなっています。人工的に受粉した雌花の実が膨らんできました。昆虫が少ないせいか人工授粉しないと実にならないようです。(井出)

★メールソフトの動きが悪く、パソコンも暑さボケでしょうか？暑さとイライラでパニックってます。でも、森は涼しそう！(水口)

★7月中旬、連日の猛暑から脱出して夫婦で北海道へ、知床の砂が風と波で半島をつくった魚付き保安林の野付半島には、ハマナス、エゾカンゾウ、センダイハギ、ヒオウギアヤメ、ハナショウブ、エゾフウロ、等等、帆をかけて風の力で名物北海シマ海老の網を引く打瀬舟。可愛いゴマフアザラシにもご対面。風蓮湖ではタンチョウヅル、エゾシカ、一日中、ネイチャーガイドさんに案内して頂きました。感謝！！(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。

振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(領 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫 (HP)

水口俊則 森 義徳 真貝 勝

鈴木 朗 鈴木松弘

天野里美 大塚晴子

ご存知・7期・竹内さんのペンション



ハケ岳自然ヒュッテからご案内 自然体験イベント

8/22(月)美しの森周辺の高原の花観察
23(火)飯盛山 29(月)天女山周辺
2時間ほどのハイキング

他、野鳥観察などイベント豊富です。

問い合わせ；電話0551-47-4886

E-mail:rsa04874@nifty.com